

令和4年度「全国学力・学習状況調査結果」概要

～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。阿南市と全国の平均正答率を比較することによって、特に顕著であったものについて説明しています。

1 調査の概要

- 調査目的
 - ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

- 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒

- 調査事項及び手法
 - ・教科に関する調査：国語、算数・数学、理科
 - ※次の内容を一体的に問うもの
 - （常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等）
 - （知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力）
 - （様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等）
 - ・質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
 - ※本年度の主な調査項目
 - （挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感）
 - （地域や社会に関わる活動の状況等）
 - （ICTを活用した学習状況）
 - （主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）
 - （学習に対する興味・関心や授業の理解度等）

- 実施日時 令和4年4月19日（火）
 - 【小学校調査】
 - 1時限目（国語：45分） 2時限目（算数：45分） 3時限目（理科：45分）
 - 児童質問紙（20～40分）
 - 【中学校調査】
 - 1時限目（国語：50分） 2時限目（数学：50分） 3時限目（理科：50分）
 - 生徒質問紙（20～45分）

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均よりやや下回りました。
- 2 算数では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 3 理科では、正答率が全国平均よりやや下回りました。
- 4 無解答率は、国語・算数共に全国平均をやや下回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

◆調査問題の主な内容

- ・話合いにおける発言の理由として適切なものを選択する。
- ・「ごみ拾い」と「花植え」から公園の美化活動にふさわしいものを選び、問題点についての解決方法を考えて、どのように話すかを書く。
- ・物語から伝わってくることを考え、推薦する文章の内容を書く。
- ・文章に対する感想の伝え合いを基にして、文章のよさを書く。
- ・漢字を文の中で正しく使う。

「登場人物の相互関係について描写を基に捉える」、「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」ことなどの正答率が全国平均を上回っています。また、評価の観点別正答率では、思考・判断・表現の問題より、知識・技能の問題の正答率が高いです。

全国平均を下回っていた設問で顕著な傾向が見られたのは、2点あります。まずは「物語を読んで推薦する」問題の「表現の効果を考える」設問です。表現の効果を考えるとは、想像した人物像や全体像と関わらせながら様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことです。この力の育成のために、低学年から系統立てて指導することが大切であり、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述・暗示性の高い表現、題材を強く意識させる表現などに着目して読むことの指導が必要と思われます。2点目は、「経験を基に考えたことを書く」にある「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問です。今後の学習指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで自分の文章のよさを見付けたり、それを言葉に表したりする指導が大切です。さらに、互いの文章を読

み合うことで、書き方の工夫等を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切です。国語力向上において、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができるよう一層の授業改善が求められます。

□ 算数

◆調査問題の主な内容

- ・ 目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考察する。【買い物】
(整数の乗法、倍数、整数の除法)
- ・ 二つの数量の関係について考察する。【果汁の割合】
(割合・百分率の表し方、基準量・比較量・割合の関係を捉える、比例の関係を用いて数量の求め方を表現する)
- ・ 目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察する。【お楽しみ会・交流会】
(表やグラフ、データの読み取り、数量の関係を加法と乗法を用いて表現・処理する)
※日常生活の事象について、統計的な問題解決の方法で考察できるようにする。
- ・ 図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する。【プログラム】
(図形の意味や性質、角の大きさ、回転の大きさ、図形の構成の仕方、筋道を立てて作図の手順を考える)

「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる」、「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」ことや、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」の設問等、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の両面で全国平均を上回っています。全体的には、記述式での正答率が全国平均よりやや高い傾向が見られます。

しかし、「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」、「割合と基準量から、比較量を求めることができる」等の設問については正答率が全国平均を下回っています。目的に応じて数を大きくみたり、小さくみたりして概算できるようにしたり、自分にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉え、その数量の関係から比較量を求める式を立てることができるようにするなどの指導が必要です。また、「図形を構成する要素に着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を確かめたりする」(プログラミ

ング) の設問においても正答率が全国平均を下回っていました。1人に1台配付しているタブレット端末等を活用し、作図の手順を基に、辺の長さや角の大きさなどから、どのような図形ができるか予想したり、実際に作図したりして、図形の性質を確かめることができるよう指導していく必要があります。

□ 理科

◆調査問題の主な内容

- ・生命に関する問題〈問題を解決するまでの道筋を構想、追加された情報を基に、より科学的な考えへの検討・改善〉【ナナホシテントウの観察】
〈自然の事物・現象の理解〉【昆虫の体のつくり】
〈提示された情報を複数の視点で分析・解釈、自然の事物・現象を気付きの視点で分析・解釈〉【昆虫の育ち方と食べ物】
- ・粒子に関する問題〈器具の理解、正しい扱い方〉【メスシリンダー】
〈実験の結果を基にしたより科学的な考えへの検討・改善〉【水溶液の凍り方】※予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して自分の考えを見直したりして考察する。
〈自然の事物・現象を気付きの視点で分析・解釈〉【水・砂糖水を凍らせた物】※試したいことをもとに問題を見つけ表現する。
- ・エネルギーに関する問題〈自然の事物・現象の理解〉【日光は直進する】
〈適切な記録〉【物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わる事】
〈追加された情報を基にしたより科学的な考えへの検討・改善、実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈〉【鏡ではね返した日光を缶に当てる】
- ・地球に関する問題〈観察で得た結果を問題の視点で分析・解釈〉【季節による気温の変化】
〈問題を解決するまでの道筋を構想〉【冬の夜の気温の変化の仕方】
〈観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈〉【結果から言えること】

「器具の理解、正しい扱い方」、「観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈する」の設問等において全国平均を上回っています。全体的には短答式の設問での正答率が高い傾向が見られます。

しかし、「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる」、「問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」等の「思考力、判断力、表現力」を問う設問において全国平均を下回っています。指導に当たっては、それぞれの気付きを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定したり、問題に対して根拠のある予想や仮説を考え、自分の考えだけでなく他者の予想も捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、解決

の方法を発想し、観察や実験などを行う場面を設定したりすることが必要です。タブレット端末を効果的に活用するなど、「比較」「分類」「順序づけ」「関連づけ」などの考えるための技法を取り入れながら、主体的・対話的な学びを実現していく学習の推進が求められます。

(2) 質問紙調査

- 「学校に行くのが楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の数値は昨年度に引き続き全国平均を上回っています。
- 「人が困っているときは、進んで助ける」「自分にはよいところがある」の問いに対する肯定的な回答の割合は、昨年度に引き続き全国平均を下回っています。また、「難しいことにでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問いにも昨年度同様、否定的な意見が全国平均を上回っています。
- 「普段どのぐらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」の質問については、全国平均より使用時間は少ない傾向となっています。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の割合は、昨年引き続き全国平均を下回っています。
- 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の問いに対して、「ある」と答えた割合は、全国平均を上回っています。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均をやや上回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均を上回りました。
- 3 理科では、正答率が全国平均をやや上回りました。
- 4 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均を下回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

◆ 調査問題の主な内容

- ・スピーチをする【「最近気になったこと」】〈表現の工夫、論理の展開を聞く〉
- ・意見文を書く【「先端技術との関わり方（スマート農業）」】
〈自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く〉
〈文脈に即して漢字を正しく使う〉
- ・文学的な文章を読む【「都会のビーチ」】〈表現の技法、描写を基に場面の展開や登場人物の心情の変化を捉える、内容の解釈〉
- ・書写〈行書の特徴、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方〉

中学校の国語は、全国平均をやや上回りましたが、昨年同様「知識及び技能」についての回答率が高く、「思考力・判断力・表現力等」の回答率は全国平均よりやや低い傾向が見られました。「知識及び技能」については、「文脈に即して漢字を正しく書く」、「表現の技法について理解する」といった問題の正答率が全国平均、県平均より大きく上回っていました。また、本年度は「行書」に関する問題が3問出され、「行書の特徴を理解する」「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」これら3つの問題すべてにおいて、全国平均を大きく上回る正答率となっていました。

残念ながら全国平均を下まわった「思考力・判断力・表現力等」についての問題は、「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」といった「読むこと」に関する問題でした。

「思考力・判断力・表現力等」について正答率が高かったのは、「書くこと」の問題で、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題は全国平均を大きく上回っていました。

昨年度も「知識及び技能」の問題の正答率は高い傾向にありましたが、本年度は全国平均を大きく上回ったものがいくつかありました。また、「思考力・判断力・表現力等」の問題についても、昨年度全国平均を下回った「書くこと」についての正答率が、本年度は全国平均を上回ったことから、国語全体の正答率が全国平均を上回る結果となったと考えられます。

一方、「読むこと」については昨年引き続き課題が見られます。昨年度に引き続き、「読書が好き」と答える子どもの割合は全国平均を上回っており、このことを「読み取る力」につなげていくための指導を充実させていくことが今後の課題です。

□ 数学

◆調査問題の主な内容

- ・素因数分解〈自然数を素数の積で表す〉
- ・連立二元一次方程式
- ・反例〈筋道を立てて考える、反例の意味を理解している〉
- ・変化の割合〈関数を用いて事象を捉え考察する〉
- ・確率〈多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味〉
- ・構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること【2つの偶数の和】
- ・データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること【コマ回し】
〈データやグラフなどを適切に読み取り、判断の理由を数学的に説明する〉
- ・日常的な事象の数学化と問題解決の方法【二酸化炭素量の削減の取り組み】
〈与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る〉
- ・見いだした図形の性質を、与えられた条件を基に考察すること【四角形と正三角形】〈証明を読んで根拠となる三角形の合同条件を見いだす〉

中学校数学全体の正答率は、全国平均を大きく上回っていました。特に「素因数分解」「連立二元一次方程式」「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」等、「知識・技能」の問題は全国平均を大きく上回っていました。

また「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」等、昨年課題の見られた「思考・判断・表現」の問題においても、全国平均を上回る、高い正答率が見られました。

生徒質問紙においては「数学の勉強は好きである」、「数学の授業で学習したことは社会に出たときに役に立つと思う」といった設問における肯定的な意見が全国平均を上回っていました。

正答率が全国平均を下回ったのは「箱ひげ図から分布の特徴を読み取るこ

とができる」、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」といった問題でした。これらの問題は、「読み取ること」や「説明すること」等、問題解決が求められる問題であり、今後は、数学を日常生活や社会の事象における問題として捉え、数学を活用して課題を解決していくための指導が必要と考えられます。

□ 理科

◆ 調査問題の主な内容

- ・タッチパネルを科学的に探究する【「エネルギー」を柱とする領域】〈静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうか〉
- ・天気の変化を科学的に探究する【「地球」を柱とする領域】〈観測データの変化を天気図と関連付けて、天気の変化を分析・解釈する〉
- ・水素の利用を科学的に探究する【「粒子」を柱とする領域】〈水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す、粒子の保存性〉
- ・生物の外部形態を基に科学的に探究する【「生命」を柱とする領域】〈共通点や相違点を見だし、動物の体の基本的なつくりを理解する〉
- ・押して使うばねを科学的に探究する【「エネルギー」を柱とする領域】〈物体に働く重力とつり合う力〉
- ・観察から大地の変動を科学的に探究する【「地球」を柱とする領域】〈岩石に関する知識及び技能。玄武岩（火成岩）、堆積岩（化石を含む）、地層の重なりと過去の様子〉
- ・水の状態変化を科学的に探究する【「粒子」を柱とする領域】〈実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して改善する〉
- ・アリの行列を科学的に探究する【「生命」を柱とする領域】〈行列のつくり方に問題を見だして設定した課題と考察が正対しているか、考察の根拠は明確かなどを検討する〉

3年ぶりに実施された、理科の正答率については、全国平均をわずかながら上回る結果となっています。学習指導要領の領域としては、第1分野の「エネルギー」と「粒子」を柱とする問題の正答率は全国平均を上回っており、第2分野の「生命」と「地球」を柱とする問題については、全国平均を下回っている傾向が見られました。

特に全国平均より正答率が大きく高かったのは「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題」及び、「化学変化に関する知識及び技能と『エネルギー』を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈

できるかどうかをみる問題」でした。

一方、「日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」や「継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観察データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる」の正答率が全国平均より低くなっています。

理科に関しての生徒の意識については、「理科の勉強が好き」と答えた生徒の割合は全国平均よりやや低い数値となっていますが、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問については、「そう思う」という肯定的な意見が全国平均を大きく上回っています。

今後については、身近な現象を関連付けて探究する場面を繰り返し設定することや他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりする学習活動を充実させることが大切であると思われます。

(2) 質問紙調査

- 「学校に行くのが楽しいですか」の質問に対しては肯定的な回答が全国平均を上回りました。
- 「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」の質問に対して、昨年に引き続き、肯定的な回答が全国平均を大きく上回りました。
- 「普段どのぐらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」の質問については昨年に引き続き、全国平均より少ない結果となっています。
- 「自分に良いところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問について肯定的な回答が全国平均を大きく上回っています。

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 G I G Aスクール構想の実現に向け、1人1台端末等、ICTの有効活用を図るため、教員研修の実施や大型提示装置の整備など、ソフト・ハードの両面からの支援を図ります。
- 3 図書館サポーターの派遣や、学校図書費の充実、子どもの読書推進計画を通して、子どもの読書活動の活性化を図り、問題解決能力育成の基礎となる読解力の向上を図ります。
- 4 市の指定研究事業の活性化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための、ICTを活用した授業改善に関する研究を進め、その成果を普及することで、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 5 基本的な生活習慣や家庭学習の充実等に向けて、家庭との連携を図ると共に、各校のHPや学校だより等による情報提供に取り組みます。

